

[D] “大会特集号” 原稿作成要領

作成要領

1 原稿の作成について

原稿の文章は必ずワープロで作成してください。原稿のサイズはA4判で、分量は1発表につき1ページです。書式は右のとおりです。原稿は同じ字体にするため、場合によっては発表者から送付していただいた原稿をそのままB5判に縮小し、写真製版による印刷をすることもありますので、あらかじめご了承ください。

図表類は手書き、写真、ワープロ等のような方法でも結構ですが、いずれもモノクロで原稿に貼り付けてください。

上余白	55mm
下余白	20mm
右余白	20mm
左余白	20mm
段組	2段
段間隔	10mm または 2字
1行文字数	22字
段行数	37行
文字種	MS明朝体
文字サイズ	10ポイント

2 希望部会・分科会

本原稿の上部右所定の位置に、別紙「[A] 研究発表の申し込みに関する確認書」記入された希望部会、希望分科会番号・分科会名の第1希望のものを鉛筆書きで書いてください。

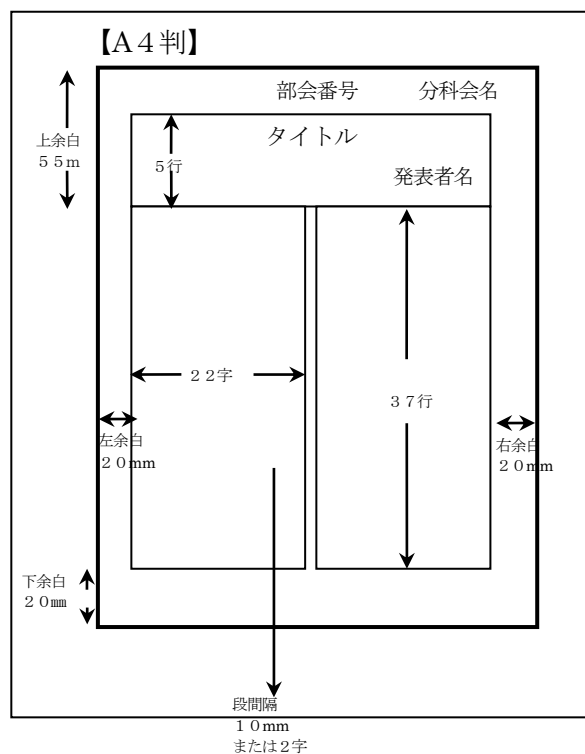
3 タイトル・発表者名

タイトルは、本文上部の上余白のうち5行分の範囲に書いてください。サブタイトルがある場合には、行を改めて書いてください。

なお、タイトル及びサブタイトルともに25字以内でお願いします。

発表者名の記入は、3名以内とします。発表者が4名以上にわたる場合は、代表者1名のみ記入し、その後に「外〇名」と書いてください。所属の記入は、都道府県、区市町村、学校の順で、次の要領で書いてください。

- (1) 特別区のある場合は、都市名の後に区名
- (2) 都道府県所在地は、都道府県名を省略
- (3) 高等学校は、都道府県のみ
- (4) 高専、大学は、都道府県名、都市名不要



4 原稿の内容

研究のねらい、研究の方法、考察、結果のまとめ等、研究の概要がよく分かるように要領よく書いてください。

「総会特集号の内容と大会当日の発表内容が違う」「序論が多く、研究内容を示す本文がない」等の指摘が例年いくつかあるようです。そのようなことがないように、充分内容を練って推敲してください。また、研究が現在進行中で大会当日でなければ結果が発表できない場合は、その旨を書いておいてください。

5 原稿表記上の注意

- (1) 読点はコンマ「,」、区点はピリオド「.」とする。
- (2) 句読点, +, -, ×, ÷, <, =などの記号は1字分とする。
- (3) 数字はバランスを考えて, 2つで1字分または1つで1字分とし, 分数や積分記号は2行分としてください。
- (4) 表の縦, 横の罫は1字分, 1行分としてください。
- (5) 見出しの番号は, つぎの順番でお願いします。
1 2 3……, (1) (2) (3) ……, ア イ ウ……, (ア) (イ) (ウ) ……
- (6) 文体は, 常体で, 「……と考える。」「……である。」などとして, 本文の書き出し, 改行のときは, 必ず1文字あけて書いてください。

《参考》部会・分科会一覧

幼稚園・小学校部会	中学校部会	高等学校部会	高専・大学部会
1 教育課程	1 教育課程	1 教育課程	◎高専・大学における数学基礎教育の諸課題 ◎理工系の数学に関する諸問題 ◎教員養成に関わる数学教育の諸問題
2 幼児教育	2 特別支援教育	2 数学Ⅰ数学A	
3 特別支援教育	3 数と式	3 数学Ⅱ数学B	
4 数と計算	4 図形	4 数学Ⅲ数学C	
5 量と測定	5 関数	5 総合的な学習の時間	
6 図形	6 資料の活用	6 コンピュータ・教育機器 対応	
7 数量関係	7 問題解決課題学習	7 コンピュータ・教育機器 対応	
8 問題解決	8 数学的な見方や考え方	8 学習指導法・評価	
9 数学的な見方や考え方	9 学習指導法	9 学習指導法・評価	
10 学習指導法	10 コンピュータ・教育機器	10 問題解決・数学の見方・考え方	
11 基礎学力	11 評価	11 大学入試	
12 コンピュータ・教育機器	12 基礎学力	12 商・工・農・理数科・その他	
13 評価	13 少人数指導	13 基礎・自由研究	
14 少人数指導	14 総合的な学習の時間	14 基礎・自由研究	
15 総合的な学習の時間	15 基礎・自由研究		
16 基礎・自由研究			

[F] “大会特集号”の原稿提出用見本

中学校 5 関数

「数学を活用することに重点をおいた実践」

～中学校 3年生「関数」の指導を通して～

岐阜県・関市立武儀中学校 亀山 雅之

1. 研究のねらい

私の勤務する武儀中学校の生徒数は全校で約80名と小規模の学校である。塾に通っている生徒は少なく家庭学習においては、質、量ともに本当に学力を付けるまでには至っていない。

また、これまで基礎的・基本的な知識及び技能の習得が不十分であるという実態を踏まえて、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る授業改善に重点を置いてきた。

ある時、単元の終末で今まで学習した内容をまとめるレポートを作成する授業を行った。そこで生徒が目キラキラさせて活動する姿に驚いた。

また、この活動は基礎基本を学びなおす機会にもなり学習を充実させることができた。このことから、学習指導要領にあるように『知識及び技能を「活用」することでその習得がより一層深まる』ということが実感できた。

そこで「数学を活用することに重点をおいた実践」をテーマに研究を進めたいと考えた。

2. 研究内容

中学校3年生「関数」の単元における指導法を工夫し、生徒に「知識・技能」「数学的な見方や考え方」を身に付けさせることが目的である。

そのために以下のような実践を行おうと考えた。

- (1) 単元における授業の役割を明確にした指導計画を作成する。

ア「知識・技能を習得すること、定着を図ることを重点とした授業」

イ「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を育むことを重点とした授業」

- (2) 授業で『シミュレーションソフト』※を活用して問題を提示し、問題を視覚的にとらえさせる。

- (3) 『単元末レポート』の作成を基礎基本の学びなおしの機会にし、「思考力・判断力・表現力」を育成する場とする。

【実践1】(2)

H22年度 全国学力状況調査「数学B」を参考に、封筒から図形が出てくる素材で授業実践を試みる。その際、視覚的に問題を理解できるように『シミュレーションソフト』を活用する。



【実践2】(3)

『単元末レポート』を課題とし、どのように作成するか生徒に選択させる。

- ・自分が苦手なところの、教科書やノートを整理してレポートにする。
- ・学習した素材を使って数値を変えて追究する過程をレポートにする。
- ・学習した素材を参考にして、自分でオリジナルの問題を作成し、問題を解決する過程をレポートにする。

3. 研究のまとめ

- ・シミュレーションを活用することで問題を動的に捉えることができ、数学が苦手な生徒も関数的な見方ができた。
- ・『単元末レポート』を作成することを通して、生徒は自分の習熟度に合った学習ができ、主体的に学ぼうとする姿が増えた。

※シミュレーションソフト

『岐阜県中学校数学教育研究会（中数研）コンピュータ委員会』の作成する『学習ソフト』のこと。 <http://www.chusuken.jp/>